

# 地域学習「鶴四ゼミ」の実践

## ～自ら課題を見つけ、解決する子どもの育成～

### 主な内容

#### 1 実践をするに当たって

鶴岡第四中学校は昭和56年に開校し、現在生徒数304名の学校である。各学年3～4クラスで構成されており、3学年は3クラス100名からなる学年である。学区には鶴岡市役所をはじめ、致道博物館、小真木原運動公園、湯田川温泉など、さまざまな施設、観光名所がある。

本校は令和4年度の1年生から、総合学習の大きなテーマを「平和教育」から「キャリア教育」に変更した。1年生は卒業後の自分の進路の見通しを立てる

「高校調べ」、2年生では自分自身と社会のつながりを考える「職業調べ」を行った。「職業調べ」のまとめとして、修学旅行で行った東京では、さまざまな企業や博物館を訪問するだけでなく、CASプログラムの活動を通して現地の社会人の方々と交流し、キャリアに対する意識を高めていった(図1)。

本実践は、中学校でつけてきた「自ら課題を見つけ、解決する力」をさらに育てるとともに、郷土を愛する心を育む機会として、卒業を4ヶ月後に控えた11月に行った。義務教育の9年間を終える今、改めて自分たちが育ってきた鶴岡について調べ、そこから郷土の発展や持続可能な都市にするための考えを提案する活動で、一人ひとりのよりよい生き方につながるものと願う。



図1 修学旅行でのCASプログラムの様子

#### 2 実践の進め方 (全8時)

##### ①ガイダンス、ウェビングを通しての個々のテーマ検討 (第1時/全8時)

ガイダンスでは、鶴岡市が消滅可能性都市に挙げられている現状を提示し、地域を活性化するために行っている他の市町村の取り組みを提示した。その後、ウェビングで鶴岡市に関連するイメージを拡大させることで、より多様なテーマを設定するきっかけを作ることができた(図2)。



図2 ウェビングの様子

##### ②個人テーマ設定 (第2時/全8時)

ウェビングによって拡大した鶴岡市に対するイメージから個々のテーマを設定した。そのテーマを「文化創造コース」「自然環境コース」「社会福祉コース」「発展創造コース」の4つに分類し、教室と担当教員を割り振った。インターネットで調べるだけでなく、書籍やアンケート調査、現地での聞き取りなどを入れること、プレゼンテーションには「テーマとSDGsとの関わり」「課題の改善策」を必ず入れることを条件とした。

### ③情報の収集、コース別活動、調査（第3～5時/全8時）

個々にプランシートを作成し、調べ学習を行った。調べた内容は生徒同士で共有しても可とした。情報収集、情報共有を活発にするために、図書室と視聴覚室（50名収容可能なグループ活動ができる教室）を開放した。各教室や図書室、視聴覚室で各自設定したテーマ同士で自発的なグループが発生し、情報共有する姿が多く見られた。

### ④プレゼンテーション（第6、7時/全8時）

調べた内容をパワーポイントにまとめ、個人で発表した。1人あたりの持ち時間を3分として、全員が個人で発表した。授業参観の形式をとり、2日間の発表で述べ20人の保護者から発表を見ていただいた。

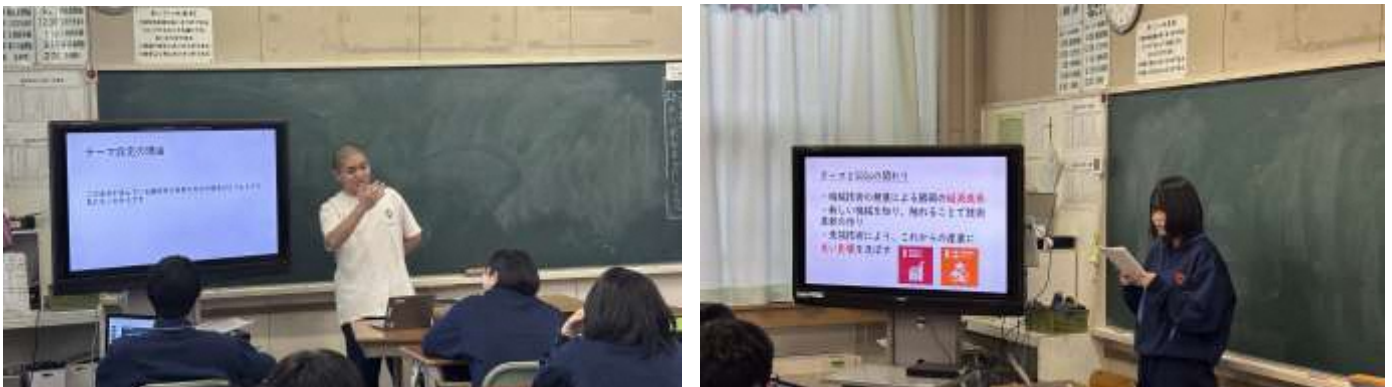


図3 プレゼンテーションの様子

### ⑤振り返り（第8時/全8時）

活動の振り返りとしてアンケートを実施した。（3学年生徒86名解答）

	自分の取り組みの満足度	鶴四ゼミの活動は楽しかったか。
5	20人（23%）	42人（49%）
4	40人（46%）	27人（31%）
3	19人（22%）	13人（15%）
2	3人（3%）	2人（2%）
1	4人（5%）	2人（2%）
生徒の回答の平均	3.80	4.22

活動を通して身についた力は何か（一部紹介）。

- ・自分の考えをわかりやすく根拠をもって説明する力。
- ・目標に向かって調べたことをうまくまとめること。
- ・鶴岡市の魅力を見つける力。見つけた課題をどうしたら解決できるかを考える力。
- ・知らないものを知ろうとする探究心。
- ・外部の機関に自ら足を運び、インタビューする勇気

## 3 これからの取り組み

本実践は、今までに本校で実践してこなかったような取り組みであり、とても教育的効果が高い実践だった。一方で、卒業期、受験期を控えた3年生としては、実践の時期、時数を設定することが大変であった。実践の時期や内容を見直ししながら、本校の伝統的な実践にしていきたいと考えている。